

はじめに

学習指導要領全面実施に伴いこれまでのことを生かして新しいことに取り組めると考える。教材の内容に引っ張られすぎないような指導ができる。各学校・各学級の課題・状況に応じて教育課程の編成・授業の工夫改善・授業の言語活動の充実等様々な取り組みができる。

他県の指導主事の話から

これからの問題点

1. 情報格差に基づく学校格差

いろいろな情報がいろいろな場所（書籍・ホームページ等）から出てくるがうまく収集活用できないと意味がない。

資料

初等教育資料（文部科学省から） 学習評価の充実と授業改善・言語活動の充実と授業改善など今求められている力を付けるために役立つ資料なので活用して欲しい。

指導事項と言語活動・評価方法などあらゆる情報が掲載されているので是非参考にして欲しい。

初等教育資料 6月号参照

キーワード：大人が頭を切り換える、子どもが自発的な学びをできるように

2. 私たち教師が取り組む時に忘れてはならないこと

(1) 教師は教えることのプロであるということ

- ・子どもが力を付けるのは授業を通してである。
- ・教師は指導をすることによって子どもに力を付けさせる。
- ・〇〇の力を付けるので〇〇の指導をする。それを評価する。指導していないことは評価できない。
- ・何を教えるのかをはっきりさせる。

学習指導要領解説P3 P11 P130 P131に示されている。

この単元では、これを教えるという計画→年間計画をきちんと整理しておく。

(2) 大人が頭を切り換えること

- ・これまでに実践を振り返りいいものはいい、よくないものはよくないとして見直していくことが大切。
- (例) 教材をきちんと読めない段落をきちんと区切るだけでなく、読む場面を明確に好きな場面を中心的に読んでいくことで主体的な思考判断ができる。教材文だけで進めていく必要はない。それとともに読書量の確保ができる。
- ・授業改善のために第2次の取り組みが大切になってくる。

(3) 学びの積み重ねの大事さを本町小学校の取り組みから

- ・今、学んでいることが何につながっているか？私生活の中で何に生かすことができるのか？子どもにとって分かるようになることが重要？使えるということを先生が説明するのではなく子どもに気づかせる事が大切。

(4) 領域を関連させて指導すること

- ・指導計画の作成と取り扱い

指導の効果を高めるために関連させる。単に2つの領域を並べて行うのではなく指導の効果を高めるために目的に応じて読む・書くことが子どもの主体的な学習につながる。学習の過程が子どもの課題解決につながる。